

シナリオ演習 説明資料

- ◆進行役から、演習参加者に対して、演習内容を説明する資料です。
- ◆進行役の説明に従って、掲載ページをお開きください。

【演習内容】

判定実施本部業務、コーディネーター業務に関する内容

【演習数】

11項目

【演習の順番】

地震直後～判定実施本部解散まで、時系列に従って実施する。
(判定実施本部業務・コーディネーター業務フローチャート参照)

【関連テキスト】

建築物応急危険度判定行動マニュアル（シナリオ演習用）

【関連シート】

演習シート 1～15

演習１：判定実施本部の設置～県災害対策本部への支援要請

【判定実施本部業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P 9～13

Ⅲ 判定実施業務マニュアル

１・地震発生時の情報収集～７．地元判定士への参集要請

演習目的：①判定実施業務の内容を把握する。
②判定実施計画、支援要請計画の立案の仕方を把握する。
③県災害対策本部への支援要請までの流れを把握する。

設定日時：震災当日

場 所：判定実施本部内

演 習 内 容

- ① 伝達シナリオに従って、「震災直後～県災害対策本部への支援要請」までの流れを把握せよ。
- ② 判定実施計画、支援要請計画を立案せよ。
具体的には、次の内容を行う。
 - 判定実施計画書（様式６）（地域版）の作成
 - 判定実施計画書（様式６）（総合版）、支援要請計画書（様式７）、応急危険度判定支援要請書（様式８）、支援判定資機材内訳書（様式９）への記入内容の確認。
 - 「判定実施計画書作成に関わる検討事項のまとめ」提出

（参 考）

- ③ 応急危険度判定支援要請・回答書の紹介（全国被災建築物応急危険度判定協議会）

【条 件】

- ① 「平塚市想定条件及び参考資料集」のとおり。
- ② 災害拠点施設は、全て安全が確認されたものとする。
- ③ 判定地域は、A地区、D地区、F地区とする。割り振りは次のとおり。

1・2班 A地区

3・4班 D地区

5・6班 F地区

【手元に準備するもの】

- ① 伝達シナリオ（演習シート１）
- ② 伝紙１～１０
- ③ 応急危険度判定手帳、又は事前配布資料１（応急危険度判定手帳P 1～P 28 抜粋（概要））
- ④ 判定実施計画書（様式６）（総合版）（地域版）
- ⑤ 支援要請計画書（様式７）
- ⑥ 応急危険度判定支援要請書（様式８）
- ⑦ 支援判定資機材内訳書（様式９）
- ⑧ 平塚市想定条件及び参考資料集
- ⑨ 判定実施計画作成の考え方（一例）・演習手順（作成するコツ）
- ⑩ 応急危険度判定支援 要請・回答書（全国被災建築物応急危険度判定協議会）
- ⑪ 判定実施計画書作成に関わる検討事項のまとめ
- ⑫ 防災マップ

青
フ
ァ
イ
ル

- ⑬ 参考図面集
- ⑭ 都市計画図
- ⑮ 電卓

《前半：演習内容 ①》

【演習手順】

- ① 演習シート1〔伝達シナリオ〕に従って、各役職が、指示内容・伝達内容を読み上げる。

演習シート 1

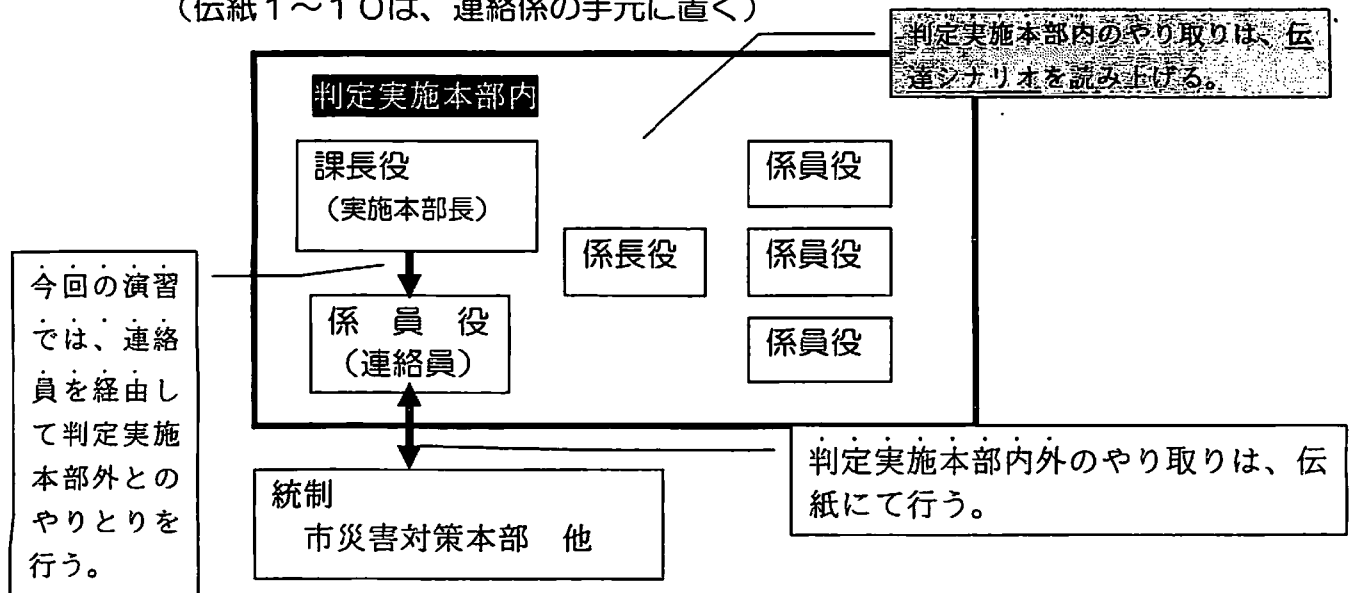
薄い網掛け：発信機関名が実施本部（建築指導課）以外の部分
【進行役が伝達する部分】

番号	想定時間	項目	発信機関名	経由機関名	伝達先機関名	内	様式NO
1							
2							
3							
4							
5							

太枠：演習参加者が伝達する部分

濃い網掛け：伝紙を使用する表示
【連絡係が関わる部分】

- ② 判定実施本部とそれ以外の伝達方法は、伝紙を使用して伝達を行う。
(伝紙1～10は、連絡係の手元に置く)



- ① 応急危険度判定の要否、公共建築物の判定実施は、震災直後に求められる対応であり、また、この時期は混乱期であることから、平常時の事前準備や、日頃の訓練（演習）が必要とされる。
- ② 応急危険度判定の要否の判断は、市町村災害対策本部が行う。応急危険度判定に携わる課として、適切な情報収集を行ったうえで、判定実施要否に関する資料を迅速かつ適切に作成して、市町村災害対策本部への提出が求められる。（平常時に、災害時の対応について、防災対策関連の部署と調整を行っておく）
- ③ 災害拠点施設となる公共建築物の判定についても、平常時から、実施方針や判定に必要な物品の整備を行う必要がある。
- ④ その他詳細については、建築物応急危険度判定行動マニュアル（P 9～11）参照のこと。

《後半：演習内容 ②》

【演習手順】

◆検討材料の収集

- ① 応急危険度判定に関する諸条件を判定手帳等から把握する。
- ② 建築物応急危険度判定行動マニュアルP 9～13、伝達シナリオの内容、想定条件、参考資料、図面等から、計画立案材料を集める。

◆検討

- ③ 判定実施計画書（様式6）（地域版）の作成については、班内で、十分意見を出し合いを検討する。

（特に検討を要す項目）

- ① 判定実施期間
- ② 調査方法
- ③ 判定士の参集場所
- ④ 判定拠点の有無・設置場所
- ⑤ 判定日（特に判定開始日）
- ⑥ 判定区域
- ⑦ 判定建築物
- ⑧ 判定士数
- ⑨ コーディネーター数

◆計画書作成

- ④ 判定実施計画書（様式6）（地域版）の作成を行う。最低でも太枠部分については、記入する。（記入者は、書記が中心に行う）

◆ 作成するコツ ◆

①～⑨の中から、設定条件を順番に決定すると作成作業が進む。

【例 1】

市対策本部の方針で、〇〇日以内に判定を終えなければいけない場合。

①⇒⑤⇒⑥⇒⑦（棟数の算出）⇒②⇒⑧（1チーム何棟判定させるか）⇒⑨・・・

【例 2】

判定建築物から検討する場合

⑤⇒⑥⇒⑦（棟数の算出）⇒②⇒⑧（1チーム何棟判定させるか）⇒⑨⇒①・・・

【例 3】

判定土数の人数に限りがある場合（特に震災直後にこの状況が考えられる）

⑤⇒⑧（1チーム何棟判定させるか）⇒⑨⇒⑦（棟数の算出）⇒②⇒⑥・・・

⑤判定実施計画書（様式6）（地域版）の内容を踏まえて次の様式の記入項目を確認する。

- ・判定実施計画書（様式6）（総合版）
- ・支援要請計画書（様式7）
- ・応急危険度判定支援要請書（様式8）
- ・支援判定資機材内訳書（様式9）

⑥「判定実施計画書作成に関わる検討事項のまとめ」用紙を提出して、演習1は終了する。

【ポイント】

- ① 平常時に予想される判定建築物の棟数を集計しておく。
- ② 震前判定実施計画書、震前支援計画書を作成する。
- ③ その他詳細については、建築物応急危険度判定行動マニュアル（P11～13）参照のこと。

《後半：演習内容 ③》

【演習手順】

- ① 応急危険度判定支援要請・回答書（全国被災建築物応急危険度判定協議会）の書式の内容について、進行役の説明を聞く。

【ポイント】

- ① 各市町村において支援要請を行う際の書式を検討する際の参考とする。

【演習グループの役割】

判定実施本部員

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

統制：市災害対策本部として伝紙を受け取る役 他

演習２：判定実施区域の設置

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P15

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

1. 判定実施の準備（各班ごとに配分する判定実施区域を設定）

2. 判定士等の受入れ準備

(1) 判定実施の準備（各班ごとに配分する判定実施区域を設定）

演習目的：判定実施区域の設定方法を習得する。

設定日時：判定士受け入れ前日

場 所：判定実施本部内

演 習 内 容

- ① 判定実施計画の内容を確認せよ。
- ② 地域内の判定方針を検討せよ。
- ③ 判定実施区域を設定せよ。（チーム単位、班単位、1日単位）
（演習では1日目の判定実施区域を設定する）

【条 件】

- ① 支援要請計画のとおり判定士は派遣される。

【手元に準備するもの】

- ① 白図（2500分の1）

1・2班	A地区用
3・4班	D地区用
5・6班	F地区用
- ② 新聞紙
- ③ マジック（赤・青・緑）

【演習手順】

- ① 判定実施計画（各地域）の1日目の内容を確認する。
- ② 地域内の判定方針（地域のどの地区から始めるのか）を検討する。
- ③ 白図に判定実施区域を設定する。
 - （1）班単位（緑）、チーム単位（青）、1日単位（赤）を、マジックで囲う。
 - （2）マジックで囲った班単位（緑）、チーム単位（青）に番号、チーム番号を記入する。

【ポイント】

- ① 判定実施計画を意識して方針を検討する。
- ② 班は、1チーム10以下とする。
- ③ 地区（A、D、F地区）内の地区から周るかを検討する。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

演習3：判定資機材のチェック

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P15

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

1. 判定実施の準備（各班・各チームごとに配分する判定実施区域を設定）
2. 判定士等の受入れ準備

(2) 判定実施の準備（必要品目、不足資材の本部への連絡）

演習目的：① 必要資機材を把握する。
② 必要資機材の調達数の算出方法を把握する。

設定日時：判定士受け入れ前日

場 所：判定実施本部内

演 習 内 容

- ① 判定資機材について、必要品目、必要数量、在庫量、本部への要請数量を確認せよ（地域ごとに判定資機材チェックリストを作成）

【条 件】

- ① 在庫量（平塚市所有）は、平塚市想定条件のとおり
- ② 要請資機材は、支援要請のとおりで対応可能

【手元に準備するもの】

- ① 各資機材
- ② 判定資機材チェックリスト（演習シート2）

【演習手順】

- ① 演習シート2・①に地域名を記入する。
- ② 演習シート2・②に作成日時を記入する。
- ③ 判定実施計画書（様式6）から、必要数量を確認して、演習シート2・③、④に記入する。
- ④ 市所有の在庫量（資料1：平塚市想定条件及び参考資料集P2）を確認して、演習シート2・⑤に記入する。（在庫量の1/12を、A・D・F地区に割り振る）
- ⑤ 演習シート2・③、④、⑤から⑥を記入する。

【ポイント】

- ① 判定する地域・街区の地域性を意識して判定調査表、判定標識の数の設定を行う（街区マップ等から推計する）
- ② 建築物応急危険度判定行動マニュアルP16「準備する判定資機材」①～⑦を参考にする。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

演習４：判定士の受付	
【コーディネーター業務】	
演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P16 Ⅳ コーディネーター業務マニュアル 3. 判定士の受付（受付（聞き取り・記入））	
演習目的：受付時のポイントを把握する。	
設定日時：判定士受け入れ当日	
場 所：判定拠点・受付会場内	
演 習 内 容	
① 判定士の受付をせよ	

【条 件】

- ① 地元判定士、応援判定士別に受付を行う。

【手元に準備するもの】

- ① 様式15-1（地元判定士用・空シート）（演習シート3）
- ② 様式15-2（応援判定士用・空シート）（演習シート4）
- ③ 読み上げ原稿（演習シート5）

【演習手順】

- ① 受付日を記入する。
- ② 判定士記入欄の確認（内容・記入漏れ等）を行う。
- ③ 演習シート4（様式15-1（地元判定士用・空シート））・②について、読み上げ原稿（演習シート5）に従って記入する。
- ④ 演習シート5（様式15-2（応援判定士用・空シート））・②について、読み上げ原稿（演習シート5）に従って記入する。
- ⑤ 表の右側の、二重線囲い部分の枠欄は、班・チーム分け後記入する欄である。（今回は記入しない）

【ポイント】

- ① 地元判定士、応援判定士、応援コーディネーターごとの受付を行う。
- ② 判定活動可能日数、認定証、腕章、判定手帳等の確認を必ず行い、必要事項を受付名簿に記載する。
- ③ 持参した判定資機材、健康状態、判定経験、専門分野、移動手段等の確認も行う。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

統制：判定士として受付を行う役（認定書、判定手帳、腕章等の提示等）

演習5：チームの振り分け、班長・副班長の決定

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P16～P17

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

3. 判定士の受付（振り分け）

4. 判定実施チーム及び班の編成

演習目的：① 判定士の振り分け時に配慮することを把握する。

② 班長・副班長を決めることを把握する。

設定日時：判定士受け入れ当日

場 所：判定拠点・受付会場内

演 習 内 容

① チームの振り分けを行え。

② 班長・副班長を決めよ。

【条 件】

① 地元判定士、応援判定士を組ませる。

（注意）実際の災害時には、地元判定士と応援判定士の人数について、バランスが取れないことが予想される。地元判定士、応援判定士を組ませるという条件は、あくまでも、本日の演習を行うための条件である。

【手元に準備するもの】

① 様式15-1（地元判定士用・受付済みシート）（演習シート6）

② 様式15-2（応援判定士用・受付済みシート）（演習シート7）

③ 様式16（演習シート8）

【演習手順】

① 演習シート8・①②（1班とする・コーディネーター名は担当者名）を記入する。

② 演習シート8・③を記入する。（記入例A、い）

③ 演習シート8・④⑤を判定区分図、判定街区マップ等から記入する。

④ 演習シート8・⑥を記入する。（今回は・「未調査」）と記入する。

⑤ 演習シート8・⑦～⑮は、今回は番号1のみ記入する。

【ポイント】

① ひとつのチームは2名の判定士で構成する。

② ひとつの班は、最大10チーム（20人）で構成する。

③ コーディネーター1名は、3班（60名）～最大5班（100名）までを統括する。

④ コーディネーターは、班長・副班長を任命する。（取りまとめにふさわしい人を選ぶ。）

⑤ 判定可能日、年齢、土地勘の有り無し、判定経験の有り無し、専門分野などについて配慮する。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

演習６：判定資機材の配布

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P18

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

5. 判定資機材の配布（班長・副班長を通じ資機材を配布）

演習目的：配布する資機材を把握する。

設定日時：判定士受け入れ当日

場 所：判定拠点・受付会場内

演 習 内 容

① 資機材を配布せよ。

【条 件】

特になし

【手元に準備するもの】

- ① 配布用資機材
- ② 判定資機材チェックリスト（演習シート9）

【演習手順】

- ① 司会に合わせ、各資機材を配布する。
- ② 判定資機材チェックリスト（演習シート9）に「レ」点にてチェックする。

【ポイント】

- ① 平常時からの各資機材の準備を行う。
- ② 班長・副班長を通じて各判定士、判定チームに資機材を配布する。
- ③ 被災地情報、判定実施保留区域情報については、判定士が判定を実施する際に危険を伴う可能性があるため、適切に情報提供を行う。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

統制：判定士（班長）として資機材の受け取りをする役

演習７：判定作業説明

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P19

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

6. 判定士、判定チームに対する判定作業の説明

演習目的：説明内容を把握する。

設定日時：判定士受け入れ当日

場 所：判定拠点・説明会場内

演 習 内 容

- ① 判定作業を説明せよ。

【条 件】

特になし

【手元に準備するもの】

- ① 読み上げ原稿（演習シート10）

【訓練手順】

- ① 説明内容を読む

【ポイント】

- ① 説明内容①～⑧を漏れなく説明する。
- ② 判定が終了しなかったときの対応を説明する。
判定作業が終わらない場合も、指定の集合時間になった場合は、直ちに活動を中止し参集するように指示する。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

統制：判定士として判定作業の説明を聞く役

演習８：判定資機材の回収等、翌日の説明

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P21

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

8. 判定作業の終了（2）資機材の回収

演習目的：① 資機材回収時の内容を把握する。

② 聴取内容を把握する。

③ 翌日の説明内容を把握する。

設定日時：判定士受け入れ当日

場 所：判定拠点・終了受付会場内

演 習 内 容

① 資機材を回収して、チェックせよ。

② 班長から、報告内容を受けよ。（特に注意を必要とする建築物の有り無しの聴取）

③ 翌日の説明を行え。

【条 件】

特になし

【手元に準備するもの】

- ① 読み上げ原稿（演習シート11）
- ② 様式11（演習シート12）
- ③ 判定資機材チェックリスト（演習シート9）

【演習手順】

- ① 読み上げ原稿（演習シート11）に従って進行する。
- ② 判定資機材チェックリスト（演習シート9）にて、回収する資機材を「レ」点にてチェックする。
- ③ 様式11（演習シート12）を受ける。
- ④ 特に注意を必要とする建築物等の有り無し、被害状況、判定士のけが等の健康状態の聞き取りを行う。
- ⑤ 宿泊施設（今回なし）、翌日の集合時間、場所の説明を行う。

【ポイント】

- ① 各班長、副班長から配布した判定資機材の回収を行う。
- ② 判定資機材は、判定結果の集計と、班編成の見直し等に対応するため、翌日も判定活動を行う判定士についても回収し、判定当日に配布し直すとよい。
- ③ 判定結果の報告の中で、特に注意を必要とする建築物等の有無、被害状況、判定士のけが等の健康状態の聞き取り、判定が終了しなかったときの対応など、聞き取りの漏れがないようにする。（聴取内容は、判定実施本部に報告）
- ④ 翌日も判定活動可能な判定士に対し、宿泊施設の説明、翌日の集合時間、集合場所等の説明を行う。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

統制：判定士（班長役）として資機材の返却をする役

演習９：判定結果の集計

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P22

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

９. 判定結果の取りまとめ・報告（(1)判定結果の集計と報告）

演習目的：集計方法を把握する。

設定日時：判定士受け入れ当日

場 所：判定拠点・終了受付会場内

演 習 内 容

- ① 判定結果を集計せよ。

【条 件】

特になし

【手元に準備するもの】

- ① 様式１１（演習シート１２）
- ② 様式１２（演習シート１３）
- ③ 様式１４（演習シート１４）

【演習手順】

- ① 様式１１（演習シート１２）の内容を、様式１２（演習シート１３）に記入する（今回は太枠部分のみ記入する）
- ③ 様式１４（演習シート１４）の作成（今回は記入例の確認まで）

【ポイント】

- ① 迅速化な集計作業が重要である。

【訓練グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

演習１０：コーディネーター業務の終了（結果報告）

【コーディネーター業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P21

Ⅳ コーディネーター業務マニュアル

10. コーディネーター業務の終了（判定実施本部への報告）

演習目的：報告内容を把握する。

設定日時：判定士受け入れ当日

場 所：判定実施本部内

演 習 内 容

- ① 本日の結果を、報告せよ。

【条 件】

特になし

【手元に準備するもの】

- ① 様式１４（演習シート１４）
- ② 読み上げ原稿（演習シート１５）

【訓練手順】

- ① 読み上げ原稿（演習シート１５）に従って進行する。
- ② 様式１４（演習シート１４）を判定実施本部へ渡す。

【ポイント】

- ① 適切な報告を行う。

【演習グループの役割】

コーディネーター

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

統制：判定実施本部員役としてコーディネーターから、当日の判定結果の報告を受ける役

演 習 11【判定実施本部業務】

演習項目：建築物応急危険度判定行動マニュアル P14

Ⅲ 判定実施業務マニュアル

10. 判定結果の集計・報告等

11. 判定実施本部の解散

演習目的：①日ごとの判定終了後における、実施本部業務の内容を把握する。

②全判定終了後における、実施本部業務の内容を把握する。

設定日時：判定初日、判定実施本部の解散日

場 所：判定実施本部内

演 習 内 容

- ① シナリオ伝達演習により、初日の判定終了後の流れを把握せよ。
- ② シナリオ伝達演習により、判定実施本部の解散日の流れを把握せよ。

【条 件】

- ① 特になし

【手元に準備するもの】

- ① 伝達シナリオ（演習シート1）
- ② 伝紙11～13

【演習手順】

- ① 伝達シナリオに従って、各役職が、指示内容・伝達内容を読み上げる。
- ② 判定実施本部とそれ以外の伝達方法は、伝紙を使用して伝達を行う。
（伝紙11は、連絡係の手元に置く）
（伝紙12は、課長役の手元に置く）
（伝紙13は、統制の手元に置く）
- ③ 伝達シナリオを、各役職に従って、読み上げる。

【ポイント】

- ① 特に注意を要する被災建築物等の状況協議、現地再調査の措置を行う。
- ② 特に危険と判定された建築物は、市災害対策本部と協議し、了解のうえ、立ち入り禁止ロープの設置、使用禁止の標識設置等を行う。
- ③ 判定実施終了に際しては、市災害対策本部は、県災害対策本部長に対して、判定結果報告、終了の連絡を行う。
- ④ 判定実施本部は、市災害対策本部長の指示をもって解散する。

【演習グループの役割】

判定実施本部員

【分科会メンバーの役割】

アドバイザー

統制：市災害対策本部として伝紙を受け取る役 他

まとめ（発表）

演習目的：①今後、職場等で対応すべきことを整理する。
②全判定終了後における、実施本部業務の内容を把握する。

内 容

- ① 応急危険度判定の判定実施本部業務、コーディネーター業務について、次の内容について話し合い及び意見交換を行う。
 - (1) 事前準備をしておくべき事項を話し合う。
 - (2) 各市町村の事前準備の状況について意見交換を行う。
 - (3) 本日の演習の感想について、各自、班内では発表する。
- ② 課長役の方が①(1)(2)を中心に、3分程度で発表する。

（参 考）

応急危険度判定コーディネーター事前準備確認事項の一例

応急危険度判定は、震災直後に実施されるため、迅速に対応が求められます。そのため、平常時の備えが特に重要になります。

話し合いの材料とするため、事前準備として必要と考えられる一例を示します。この例以外に考えられることについても、ぜひ意見をおだしてください。

なお、演習を通じて、公共建築物等の判定の実施について、触れる時間が少ないですが重要な業務となります。公共建築物の判定の実施の視点からも、事前準備を必要とする事項について話し合ってみてください。

【1. 体制整備の視点から】

（人的要素）

- ①職員判定士連絡網
- ②職員判定士への判定実施業務、コーディネーター業務の役割分担等の説明会、訓練の実施
- ③地元判定士連絡網
- ④地元判定士リーダー会議の実施

（物的要素）

- ①判定資機材等の必要備品の洗い出し、在庫確認、購入
- ②公共建築物に関する図面関係（【4】参照）

【2. 作成しておく項目の視点から】

- ①行動マニュアルの作成
- ②必要様式の作成（マニュアル様式・資料一覧表参照）
- ③必要書式の作成（マニュアル様式・資料一覧表参照）
- ④街区マップの作成（必須）
- ⑤震前判定実施計画の作成
- ⑥震前支援計画の作成

【3. 各種の決め事の視点から】

- ①公共建築物判定の担当割り振り（事前に施設ごとに担当を割り振る方法等）（【4】参照）
- ②指示命令について（責任者がいないときの対応）
- ③応援判定士の宿泊施設は準備するのか

【4. 公共建築物等の判定実施の視点から】

- （1）実施方針の整備（平常時に決めておく必要あり）

（方針項目の一例）

- ・判定する建築物
- ・担当割り振りの考え方（事前に施設ごとに担当を割り振る方法、震災時点で担当を割り振る方法等）
- ・判定士以外の同行（例：設備職、電気職の同行等）
- ・地元判定士の協力をお願いするのか

- （2）判定に必要な物品の整備（平常時に整備を行う必要あり）

- ・判定資機材、図面（建築、電気設備、機械設備等）、施設一覧表、地図、配置計画表、判定結果集計表等

【5. その他】